

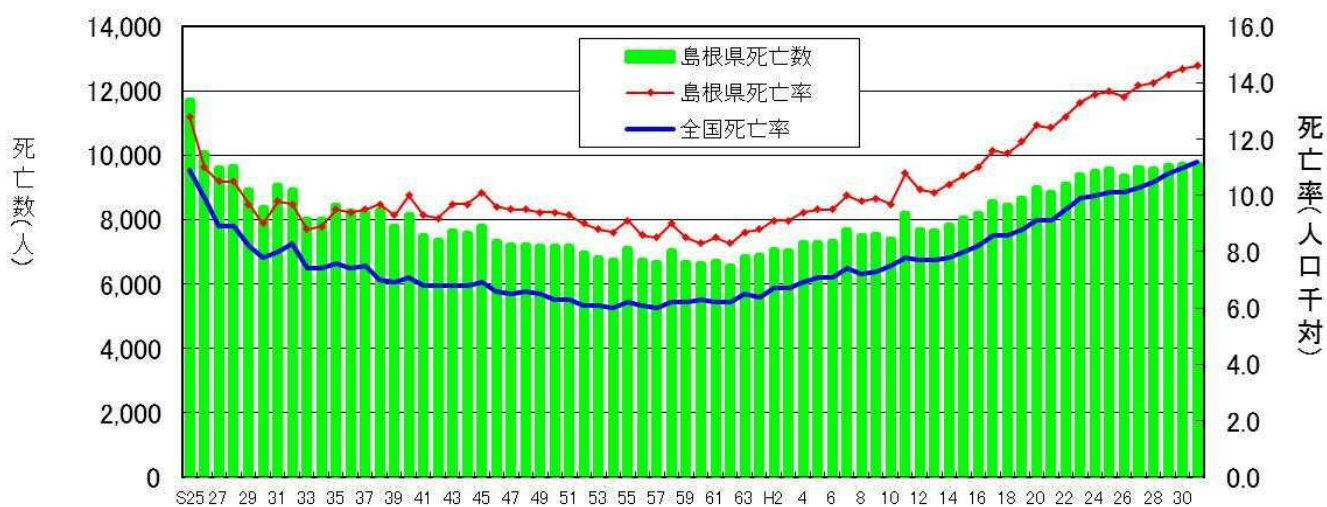
### 3 死亡

#### (1) 死亡数・死亡率

令和元年の死亡数は9,710人で、前年の9,724人より14人減少し、死亡率(人口千対)は14.6で、前年の14.5より0.1増加した。

死亡率の年次推移をみると、戦後急速に低下したが昭和30年代半ばから低下傾向が緩やかになり、昭和63年からは人口の高齢化に伴って再び上昇し始め、その後も上昇傾向を続けている(図4)。

図4 死亡数・死亡率の年次推移



年齢階級別に死亡率(人口10万対)をみると、5~9歳、10歳代、20~24歳、35~39歳、40歳代、55~59歳、65~69歳、70~74歳の各階級及び80歳以上が前年より増加し、0~4歳、25~29歳、30~34歳、50~54歳、60~64歳、75~79歳の各階級が前年より減少した。特に80歳以上の増加が大きい。

死亡率性比(男性の死亡率/女性の死亡率×100)を年齢階級別にみると、15~19歳及び30歳以上の各階級において100以上となっており、男性の死亡率が高いことを示している(表4)。

表4 年齢（5歳階級）別死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡率性比
	令和元年	平成30年	対前年増減	令和元年	平成30年	対前年増減	
総数	9,710	9,724	△ 14	1,460.2	1,449.2	11.0	103.0
0～4	11	14	△ 3	42.3	53.8	△ 11.5	76.9
5～9	2	1	1	7.1	3.6	3.5	-
10～14	3	1	2	10.3	3.4	6.9	-
15～19	5	5	0	16.1	15.6	0.5	140.7
20～24	11	8	3	45.8	34.8	11.0	-
25～29	10	12	△ 2	41.7	48.0	△ 6.3	61.1
30～34	9	15	△ 6	30.0	48.4	△ 18.4	125.0
35～39	25	23	2	71.4	63.9	7.5	141.7
40～44	42	37	5	102.4	86.0	16.4	304.8
45～49	73	56	17	169.8	133.3	36.5	207.5
50～54	73	89	△ 16	192.1	234.2	△ 42.1	217.4
55～59	138	133	5	345.0	316.7	28.3	181.6
60～64	257	288	△ 31	571.1	626.1	△ 55.0	219.5
65～69	458	482	△ 24	848.1	831.0	17.1	275.4
70～74	683	624	59	1,313.5	1,300.0	13.5	270.3
75～79	846	843	3	2,115.0	2,161.5	△ 46.5	242.4
80～	7,064	7,093	△ 29	8,310.6	8,247.7	62.9	137.2

注：死亡率性比＝男性の死亡率／女性の死亡率×100

## （2）死因

### ①死因順位

令和元年の死亡数を死因順位別に見ると、第1位は悪性新生物で2,480人（人口10万対死亡率372.9）、第2位は心疾患で1,375人（206.8）、第3位は老衰で982人（147.7）となっている（表5）。なお、全国の死因は、第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が老衰となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物による死亡率は上昇を続け、昭和59年以降、死亡原因の第1位となった。心疾患の死亡率は、平成12年に死亡原因第2位となって以降上昇傾向にある。老衰の死亡率は、ほぼ横ばいで推移していたが、平成19年以降上昇し続けている。脳血管疾患の死亡率は、平成12年以降概ね横ばいで推移している。（図5）。

また、死因別の死亡率を都道府県別に比較した場合、本県はアルツハイマー病（全国第1位）、誤嚥性肺炎（第2位）、血管性及び詳細不明の認知症（第3位）の死亡率が高い水準を示している。

図5 主要死因の死亡率の年次推移

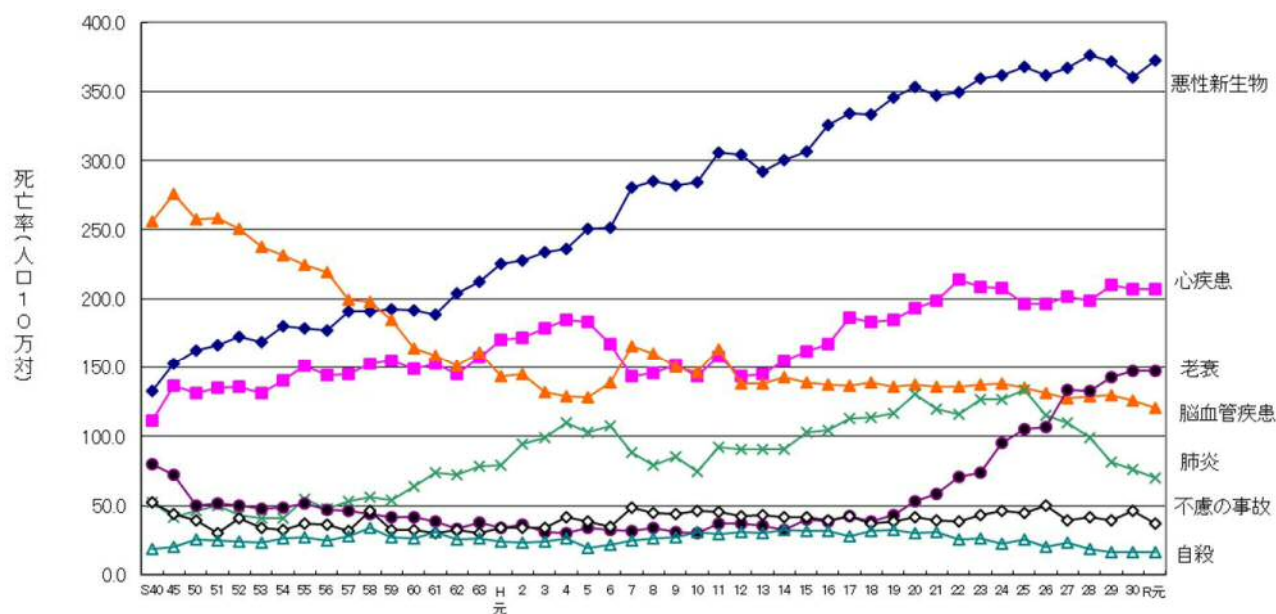


表5 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位；性別

死 因	令和元年									平成 30 年		
	総数			男性			女性			総数		
	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率
悪性新生物<腫瘍>	1	2,480	372.9	1	1,439	448.3	1	1,041	302.6	1	2,417	360.2
心疾患(高血圧性を除く)	2	1,375	206.8	2	589	183.5	2	786	228.5	2	1,388	206.9
老 衰	3	982	147.7	5	251	78.2	3	731	212.5	3	987	147.1
脳血管疾患	4	803	120.8	3	376	117.1	4	427	124.1	4	847	126.2
肺 炎	5	463	69.6	4	266	82.9	5	197	57.3	5	512	76.3
誤嚥性肺炎	6	389	58.5	6	228	71.0	7	161	46.8	6	328	48.9
アルツハイマー病	7	290	43.6	9	98	30.5	6	192	55.8	8	238	35.5
不慮の事故	8	244	36.7	7	116	36.1	9	128	37.2	7	309	46.1
血管性及び詳細不明の認知症	9	210	31.6	13	76	23.7	8	134	39.0	9	193	28.8
腎 不 全	10	198	29.8	10	95	29.6	10	103	29.9	10	180	26.8

注1)平成 30 年は確定数

2)平成 29 年より死因統計に係る分類については「ICD-10(2013 年版準拠)」に変更となり、  
それに伴い「誤嚥性肺炎」が死因順位に用いる分類項目に追加された。

3)男性の 8 位は「慢性閉塞性肺疾患」で死亡数 106 死亡率 33.0 である。

## ②年齢別死因

令和元年の死因を性・年齢（5歳階級）別構成割合から見ると、自殺の占める割合は女性が30～34歳、男性においては15～19歳、30～34歳、35～39歳が高くなっている。また、死因順位第1位の悪性新生物の占める割合は、男性は概ね40～44歳から増加し、65～69歳がピークとなっている。女性は35～39歳が最も高く、概ね40代から60代では5割以上を占めている（図6）。

図6-1 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（男性）

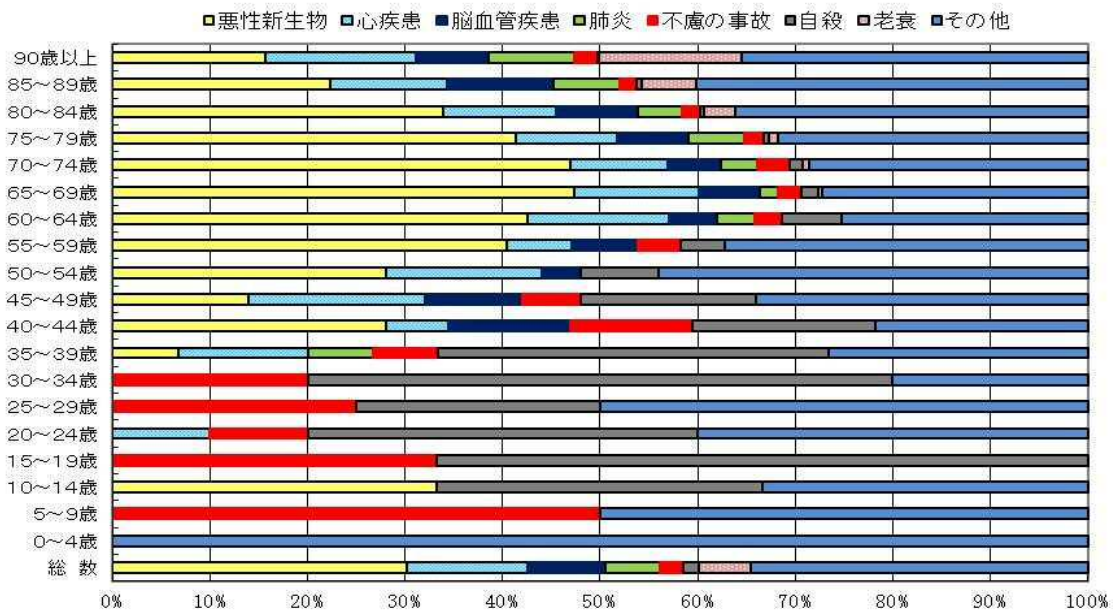
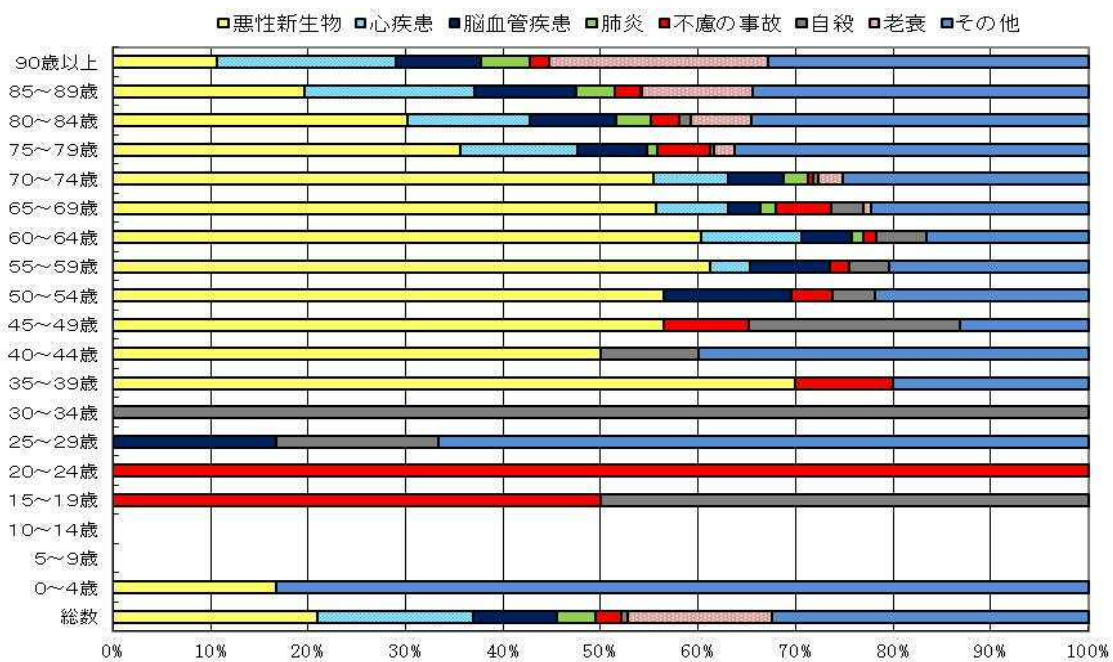


図6-2 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（女性）



### ③部位別に見た悪性新生物

悪性新生物について死亡数、死亡率（人口10万対）を主な部位別に見ると、男性では肺、肝、膵、大腸が上昇し、令和元年の死亡数は順に361人、129人、112人、174人、死亡率は順に111.4、39.8、34.6、53.7となっている。女性では胃、膵、乳房が上昇し、令和元年の死亡数は順に122人、132人、87人で、死亡率は35.1、37.9、25.0となっている。（表6、図7）。

**表6 悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率（人口10万対）の年次推移**

死亡数		S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元
男性	胃	250	314	293	273	263	267	230	227	242	230	218	237	216	208	207	197	<b>176</b>
	肺	19	61	82	169	250	299	363	301	352	305	347	336	363	319	305	328	<b>361</b>
	肝	54	55	65	121	206	208	191	173	155	159	143	159	137	141	122	115	<b>129</b>
	膵	8	23	26	54	84	92	89	113	100	101	114	119	119	137	118	107	<b>112</b>
	大腸*	23	42	48	79	151	163	164	168	177	192	157	175	171	178	158	148	<b>174</b>
女性	胃	165	179	202	149	159	137	152	137	137	146	149	134	116	109	130	115	<b>122</b>
	肺	8	18	32	52	109	98	107	123	101	137	112	126	118	128	139	129	<b>124</b>
	肝	37	33	35	55	89	99	90	88	85	84	103	80	76	90	88	64	<b>57</b>
	膵	6	17	24	40	68	89	92	99	128	96	101	92	115	133	121	117	<b>132</b>
	乳房	18	16	25	28	38	43	54	65	56	62	63	67	72	78	55	73	<b>87</b>
	子宮	93	71	57	40	38	25	21	36	30	30	34	35	29	26	33	38	<b>35</b>
大腸*	30	44	48	85	123	125	150	140	154	153	165	150	160	159	177	173	<b>169</b>	

死亡率		S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元
男性	胃	54.7	79.8	80.0	71.7	71.7	73.7	65.2	66.5	71.4	68.2	65.3	71.4	65.3	63.2	63.5	60.8	<b>54.3</b>
	肺	4.2	15.5	22.4	44.4	68.1	82.6	102.8	88.2	103.8	90.5	103.9	101.2	109.7	97.0	93.6	101.2	<b>111.4</b>
	肝	11.8	14.0	17.7	31.8	56.1	57.4	54.1	50.7	45.7	47.2	42.8	47.9	41.4	42.9	37.4	35.5	<b>39.8</b>
	膵	1.8	5.8	7.1	14.2	22.9	25.4	25.2	33.1	29.5	30.0	34.1	35.8	36.0	41.6	36.2	33.0	<b>34.6</b>
	大腸*	5.0	10.7	13.1	20.7	41.1	45.0	46.5	49.2	52.2	57.0	47.0	52.7	51.7	54.1	48.5	45.7	<b>53.7</b>
女性	胃	34.9	41.8	50.4	35.8	39.8	34.7	39.3	36.9	37.1	39.9	41.0	37.2	32.4	30.7	37.0	33.0	<b>35.1</b>
	肺	1.7	4.2	8.0	12.5	27.3	24.8	27.6	33.1	27.4	37.4	30.9	35.0	32.9	36.1	39.6	37.1	<b>35.6</b>
	肝	7.8	7.7	8.7	13.2	22.3	25.1	23.3	23.7	23.0	23.0	28.4	22.2	21.2	25.4	25.1	18.4	<b>16.4</b>
	膵	1.3	4.0	6.0	9.6	17.0	22.5	23.8	26.7	34.7	26.2	27.8	25.6	32.1	37.5	34.5	33.6	<b>37.9</b>
	乳房	3.8	3.7	6.2	6.7	9.5	10.9	14.0	17.5	15.2	16.9	17.4	18.6	20.1	22.0	15.7	21.0	<b>25.0</b>
	子宮	19.7	16.6	14.2	9.6	9.5	6.3	5.4	9.7	8.1	8.2	9.4	9.7	8.1	7.3	9.4	10.9	<b>10.1</b>
大腸*	6.4	10.3	12.0	20.4	30.8	31.7	38.8	37.7	41.7	41.8	45.5	41.7	44.7	44.8	50.4	49.7	<b>48.6</b>	

注：大腸の悪性新生物は、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を示す。

ただし、昭和40年は十二指腸と小腸を含み、昭和50年は肛門を含む。



図 7-1 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（男性）

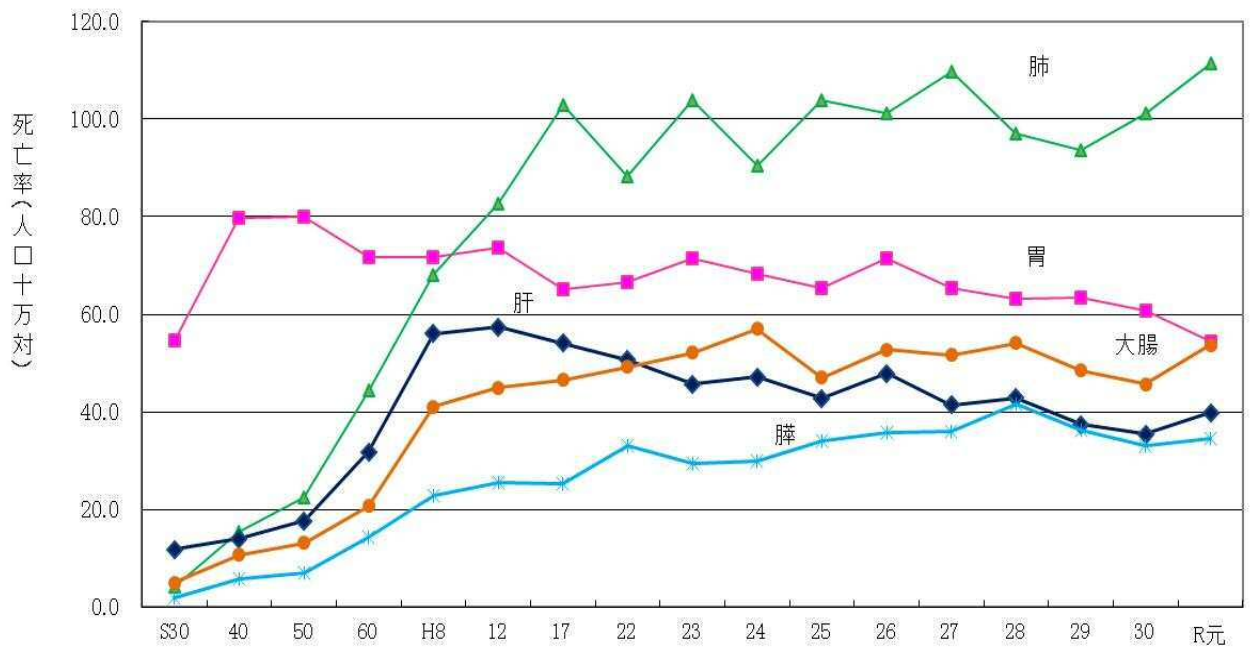


図 7-2 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（女性）

